

FD委員会での話題から

FD委員会は、毎月の第一木曜日に開催されています。このコーナーでは、FD委員会で話し合われた内容から話題を選んで紹介します。今回は、授業アンケートデータの取り扱いについて取り上げます。

2012年度第1回のFD委員会(5月)で、委員の一人から授業アンケートデータの取り扱いについての質問がありました。授業アンケートは、FD委員会の前身である高等教育改善支援部門の時代に始まりました。そのときに決まったデータの扱いについては、FD委員の間でもあまり知られていませんでした。そこで、授業アンケート実施の流れ(概略)をまとめておきたいと思います。

- ① 年度初めにアンケート実施科目を決定
(全科目実施が原則だが、授業の形態などによりアンケートになじまない一部の授業は未実施)。実施科目の履修者数に応じて、業者から教育・学生支援センター(以下、教学センター)へマークシートが送付される。
- ② 教学センターは、各教員のメールアドレスへ対象科目のマークシートを配付。
- ③ 教員は、授業中にアンケートを実施。その後、記入済みマークシートを回収し直ちに封をする。
- ④ 教員は、回収した記入済みマークシート(および残部)を教学センターへ提出。
- ⑤ 全教員からの提出を待って、教学センターはマークシートを業者へ送付。
- ⑥ 業者は、マークの読み取りといくつかの簡単な集計を行い、自由記述を電子化する。授業ごとの結果集計表および全体の分析結果が、業者から教学センターへ送付される。
- ⑦ 教学センターは、担当教員のメールアドレスへ結果集計表を配付(非常勤教員分は自宅へ郵送)。各授業の結果集計表のコピーと全体の分析結果は、教学センターで保管。FD委員会において全体データの追加分析を行うことはあるが、分析の際に個々の授業には触れない。

授業アンケート結果が授業改善以外の目的で利用されることはありません。現状では、学生からの回答を授業に活かすための方策は、それぞれの教員に一任されています。ぜひ積極的に活用してください。アンケート結果の見方や活用法に関する疑問や要望は、遠慮なくFD委員までお伝えください。

授業公開について

FD活動の一環として授業公開を行う大学・短大が増えています。しかし、参加者が少なく低調であるなど、どこかの大学・短大もそれぞれに試行錯誤を重ねています。本学でも、授業公開を始めた当初は、ごく少数の授業を選び日時を指定して公開していましたが、参加者が非常に少数にとどまっていた。その後、授業公開期間(一週間)中はどの授業を見学してもよいという方式を経たのち、見学者の「見学しやすさ」を考慮して、平成22年度後期から、専任教員に一人一科目の公開授業を選んでもらい、リスト化して配る方式を導入しました。

他の教員の授業を見学すること、あるいは授業を見られることは、授業改善への刺激を与えてくれるに違いありません。「見たい授業と自分の授業が重なっている」という声も寄せられていますが、前後期それぞれ一週間の授業公開は今後も続ける予定です。都合のつく時間に一つでも二つでも、見学していただけたらと思います。授業公開の参加票に書いていただいたご意見については、今後のFD活動に反映させていただきます。

参加票をもとに、これまでの授業公開の見学者数を表にまとめました(裏面)。平成24年度後期の授業公開は、11月26日からです。

授業公開参加票の提出者数

年度	期	実施日	提出者数				備考
			教員	職員	不明	計	
平成 22 年度	前期	6/21 ～ 6/26	参加票を用意せず				1 週間の公開期間中のすべての授業が公開対象
	後期	12/13 ～ 12/18	63		0	63	専任教員自身が選んだ授業を公開対象としてリスト化
平成 23 年度	前期 *	6/20 ～ 6/25	61	29	2	92	職員も見学可能に
	後期	12/ 5 ～ 12/17	38	9	0	47	実施期間は 2 週間
平成 24 年度	前期	6/25 ～ 6/30	39	3	0	42	実施期間を 1 週間に戻す
	後期	11/26 ～ 12/ 1					予 定

*平成23年度前期の授業公開については、FD NEWS LETTER No.5 で詳細を報告済み

FDコラム 児童教育学科FD委員 木村 博人

FD活動はもちろん委員会のみで行っているわけではない。このコラム欄担当の機会に、児童教育学科のFD活動の一つと考えられるカリキュラム改訂に関連して雑感を述べたい。

まず、児童学科の佐伯一弥先生に感謝を表す。佐伯先生は、児童学科のカリキュラム改訂を是澤先生とともに推進された。その時の資料、電子データ、書式フォーマットをすべてご提供いただいた。私からの勝手な依頼にいやな顔一つせず、長時間にわたり資料の説明の他、取りまとめの難しさなど様々なお話をいただいた。これがなければ教学センターへの資料提出は膨大な無駄な時間を費やさねばならなかったと思う。本当に感謝に堪えない。ありがとうございました。その後、教学センターの各部署の方々とは、内容についてはもとより、カリキュラム改訂の手順や手続き、

提出書類の統一を図るべきだと話がまとまった。次にカリキュラム改訂を実施される学科に間に合うことを期待している。

また、佐伯先生は基礎ゼミの新設に関して強く興味を示してくれた。学生の生活指導と教員からの支援の必要性を彼も強く感じてくれていて、これは学科を超えた大学全体の共通課題だと感じたことを思い返す。過日教職員研究会で、児童教育学科を代表して結城先生に基礎ゼミについて発表していただいたが、そのすぐ後に佐伯先生の訃報が届いた。もっとたくさん佐伯先生の話が聞きたかったと思う。もっともっと彼の叡智を本学の教育活動に反映させたかったと思う。この残念さ無念さをより良い改善につなげていくこともFD活動であろう。

編集後記

近年、学部や学科単位でのFDへの取り組みが強調されるようになっていきます。本学における授業アンケートの取り扱いや授業公開への参加などについても、個々の教員任せではなく、もっと組織的な取り組みが必要なのかもしれません。一方で、やらされるFD、強制されるFDにしたくないという思いもあります。オープンな議論を重ねながら、授業改善に役立つ試みを見つけていきたいと思っています。今後とも、FD活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

お知らせ

授業アンケートへの学生の回答に対して毎年書いていただいている「教員からのコメント」をウェブ化しました。東京家政大学トップページの **FDへの取り組み** からご覧いただけます。